



2015 年 8 月 4 日改訂  
LPI-Japan 事務局

## レベル 3 304 試験の出題範囲改訂 (Ver2.0) について

2015 年 10 月 1 日 (予定) より、日本語版のレベル 3 304 試験の出題範囲を改訂します。  
改訂時期は変更になる場合がございますのでご了承ください。  
改訂後の出題範囲のバージョンは、**Ver2.0** となります。

### ■ LPIC レベル 3 304 試験 (Ver2.0) の出題範囲

<http://lpi.or.jp/lpic3/range/ver2.0/range304.shtml> (日本語)

<https://www.lpi.org/study-resources/lpic-3-304-exam-objectives/> (英語)

### ■ 出題範囲改訂の背景とメリット

仮想化技術と高可用性技術は共にクラウド基盤構築の中心的な技術であり、近年、急速に普及、発達している分野です。新出題範囲では、仮想化技術にクラウド管理ツールやコンテナ技術、そして新しいツールを取り入れ、高可用性技術では、高可用性技術対応バージョンの更新と新しいツールを取り入れました。

これにより、LPIC-3 304 の新出題範囲の認定者は最新のテクノロジーに追随したスキルを持つことを証明することができます。

### ■ LPIC-304 における変更点

仮想化技術と高可用性技術の急速な進展を反映したことで、より進展の著しい仮想化の比率が相対的に増加し、結果として構成比率は仮想化 60%、高可用性 40% になりました (旧バージョンは共に 50%)。その他下記の変更を行い、全体を再編成しました。

- Xen バージョンの更新。
- ibvirt および virsh の追加。
- OpenStack の追加。
- 高可用性 (HA) テクノロジーバージョンの更新。

### ■ 旧バージョンの受験期間延長

新バージョン (Ver2.0) リリース後の「6ヶ月間」は、旧バージョン (Ver1.0) を選択して受験することもできます。

また、バージョンに関係なく、有意な LPIC レベル 2 を保有し、304 試験に合格すれば、LPIC-3 Specialty LPI-304 Virtualization & High Availability に認定されますが、この分野の技術の進展は著しいため、新バージョンでの受験をお勧めします。

なお、ピアソン VUE の受験予約ページには、各バージョンの試験は下記のように表示されます。

試験	ピアソン VUE の予約画面での表示	
	試験番号	試験名
304 試験 (Ver2.0)	304-200	LPI Level 3 Exam 304, Senior Level Linux Certification, Virtualization & High Availability

304 試験 (Ver1.0)	<b>304-150</b>	LPI Level 3 Exam 304, Senior Level Linux Certification, Virtualization & High Availability
-----------------	----------------	--

■ 出題範囲の変更点概要

全体を再グループ化し、331、332、333 を 334、335 に置き換えました。新旧の出題範囲構成は以下のようになります。

Ver 1.0 (現行バージョン)	Ver 2.0
330 仮想化	330 仮想化
331 ロードバランシング(負荷分散)	334 高可用クラスタ管理
332 クラスタ管理	335 高可用クラスタストレージ
333 クラスタストレージ	

また、改訂前後の出題範囲構成の詳細と重要度は以下のようになります。

Ver 1.0	重要度
主題 330: 仮想化	
330.1 仮想化の概念と理論	10
330.2 Xen	10
330.3 KVM	7
330.4 その他の仮想化ソリューション	3
主題 331: ロードバランシング(負荷分散)	
331.1 Linux Virtual Server	5
331.2 HAProxy	3
331.3 LinuxPMI	1
主題 332: クラスタ管理	
332.1 Pacemaker	5
332.2 Pacemaker 上級	3
332.3 Red Hat Cluster Suite	3
332.4 Red Hat Cluster Suite 上級	3
主題 333: クラスタストレージ	
333.1 DRBD	3
333.2 グローバルファイルシステムと OCFS2	3
333.3 その他のクラスタファイルシステム	1

Ver 2.0	重要度
主題 330: 仮想化	
330.1 仮想化の概念と理論	8
330.2 Xen	9
330.3 KVM	9
330.4 その他の仮想化ソリューション	3
330.5 Libvirt と関連ツール	5
330.6 クラウド関連ツール	2
主題 334: 高可用クラスタ管理	
334.1 高可用性の概念と理論	5
334.2 ロードバランスクラスタ	6
334.3 フェイルオーバークラスタ	6
334.4 エンタープライズ Linux ディストリビューションにおける高可用性	1

主題 335: 高可用クラスタストレージ	
335.1 DRBD / cLVM	3
335.2 クラスタファイルシステム	3

●330.2: Xen

KVM とのバランスを反映し、本項目の重要度を 10 から 9 に下げました。

Xen の対象バージョンを 4.x としました。

xm ツールチェーンを認知レベルに低減しました。

xl および xe ツールチェーンを追加しました。

●330.3: KVM

Xen とのバランスを反映し、本項目の重要度を 7 から 9 に上げました。

重要な用語から、kvm-qemu および kvm\_stat を削除しました。

重要な用語に、qemu-img および kvm-admin を追加しました。

●330.4: その他の仮想化ソリューション

Linux コンテナ (LXC) を認知レベルで追加しました。

●330.5: Libvirt および関連ツール

新しい出題範囲として「Libvirt および関連ツール」を追加しました。重要度は 5 です。

virsh の利用、oVirt の概要、libvirt ライブラリの基本的な技術知識を含みます。

●330.6: クラウド管理ツール

新しい出題範囲として「クラウド管理ツール」を追加しました。重要度は 2 です。

OpenStack と CloudStack の基本機能の知識、Eucalyptus と OpenNebula の認知を含みます。

●331.1: Linux Virtual Server

再グループ化により、334.2 ロードバランスクラスに移動しました。重要度は 6 です。

●331.2: HAProxy

再グループ化により、334.2 ロードバランスクラスに移動しました。重要度は 6 です。

●331.3: LinuxPMI

本項目は削除しました。

●332.1: Pacemaker

再グループ化により、334.3 フェイルオーバークラスタに移動しました。重要度は 6 です。

●332.2: Pacemaker 上級

再グループ化により、335.1DRBD/cLVM に移動しました。重要度は 3 です。

●332.4: Red Hat Cluster Suite 上級

再グループ化により、334.4 エンタープライズ Linux ディストリビューションの高可用性に移動しました。重要度は 1 です。

●333.1: DRBD

再グループ化により、335.1DRBD/cLVM に移動しました。重要度は 3 です。

DRBD バージョン 8.4.x を追加しました。バージョン 8.3.x も引き続き含まれます。

●333.2: グローバルファイルシステムと OCFS2

再グループ化により、335.2 クラスタファイルシステムに移動しました。重要度は 3 です。

●334.1: 高可用性の概念と理論

再グループ化による新区分です。高可用性全般についての主題を新設しました。重要度は 5 です。

●334.2: ロードバランスクラスタ

再グループ化による新区分です。従来の 331.1LVS と 331.2 HAProxy が含まれます。重要度は 6 です。

●334.3: フェイルオーバークラスタ

再グループ化による新区分です。従来の 332.1Pacemaker が含まれます。重要度は 6 です。

●334.4: エンタープライズ Linux ディストリビューションの高可用性

再グループ化による新区分です。従来の 332.3、332.4RedHat Cluster Suite 関連が含まれます。重要度は 1 です。

●335.1: DRBD/cLVM

再グループ化による新区分です。従来の 333.1DRBD と 332.2Pacemaker 上級が含まれます。重要度は 3 です。

●335.2: クラスタファイルシステム

再グループ化による新区分です。従来の 333.2、333.3 クラスタファイルシステム関連が含まれます。重要度は 3 です。

以上